

のぞみカフェnanairoの外構をデザインする ～課題挑戦型インターンシップ～

東北公益文科大学 チームM-1

加藤潤斗 門叶美咲 野口 佳那

目次

- ビジョン

- 顧客

- 課題

- 解決策

 - ゲームなどでもできるテラス席

 - 季節ごとの看板作成イベントの開催

 - 不定期な駄菓子屋の開催

- チャンネル

- 効果

- 福祉施設が行う意味

- まとめ

ビジョン

「福祉カフェ」からにぎわいと交流をつくる。

具体的には…

「福祉施設だから訪問する」カフェではなく、「おしゃれで居心地がいいから訪問する」カフェを目指す。

ゴール

目指す場所

- カフェを利用しなくてもふらっと立ち寄れる場所
- 気軽にくつろぐことができ、コミュニケーションが取れる場所

顧客

カフェnanairo周辺の人口

鶴岡市第三区年齢別人口		
	年齢	人数
1	85歳以上の女性	635
2	70-74歳の女性	455
3	45-49歳の男性	445
4	55-59歳の女性	444
5	65-69歳の男性	441
6	45-49歳の女性	438
7	65-69歳の女性	436
8	50-54歳の女性	422
9	55-59歳の男性	412
10	60-64歳の男性	402
11	70-74歳の男性	398
12	60-64歳の女性	388
13	80-84歳の女性	379
14	75-79歳の女性	377
15	50-54歳の男性	375
16	35-39歳の男性	367
17	30-34歳の男性	354
18	40-44歳の男性	337
19	35-39歳の女性	336
20	40-44歳の女性	323
21	20-24歳の男性	321
22	30-34歳の女性	321
23	25-29歳の男性	300
24	25-29歳の女性	285
25	75-79歳の男性	283
26	15-19歳の男性	276
27	20-24歳の女性	272
28	10-14歳の男性	258
29	85歳以上の男性	247
30	80-84歳の男性	245
31	15-19歳の女性	239
32	10-14歳の女性	229
33	0-4歳の女性	218
34	5-9歳の男性	214
35	0-4歳の男性	213
36	5-9歳の女性	208

図1 鶴岡市第三区年齢別人口
(2021年3月31日調査)

出所：鶴岡市地域・年齢別人口に基づき報告者作成、
2022年9月17日参照。

顧客

カフェの近所に住んでいる40～70代以上の女性
近所の子供たち・親子

理由

- 地域の人が気軽に来る・集まれる場所にするには、その地域に住む年代に合わせた案を考えるべきである。
- 地域の方が集まるコミュニティをつくるには子供たちも顧客に取り入れるべきである。
- 平日のお昼に40～70代以上女性、平日の夕方は子供たちが利用しやすい。

課題

- イベントの時は人が集まるが日常的に地域の人が集まらない。
- カフェ・イベント以外の目的で訪れる人がいない。

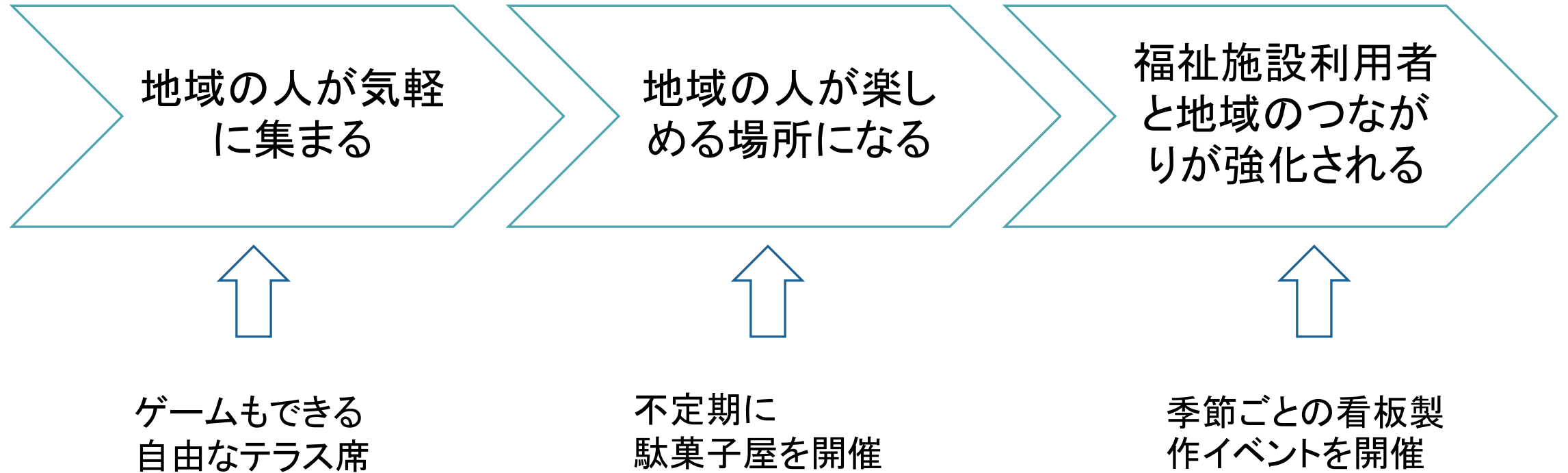
解決策

- 広場のような外構を目指す。
 - カフェを利用しなくてもふらっと立ち寄れる場所にする。
- 気軽にくつろぐことができ、コミュニケーションが取れる場所を目指す。
 - 地域の方が交流できる場所にする。

具体的な解決策

- ゲームもできる自由なテラス席をつくる。
- 不定期に駄菓子屋を開催する。
- 季節ごとの看板製作イベントを開催する。

具体的な解決策



ゲームもできる自由なテラス席

地域の人が
気軽に集まる
場所とは

自由に話や
ゲームなどが
できる場所

ゲームもでき
る自由なテラ
ス席をつくろう

ゲームもできる自由テラス席

- 放課後に子供たちがゲームをしながら話せるようなテラス席をつくる。
- コンセントとWi-Fiをつけてゲームや携帯・PCができる環境をつくる。



- 自由な場所として地域の人が気軽に利用することができる。
- 普段は福祉に興味がない子にも福祉の知識を教えることができる。
- ゲームを通して子供たちも仲良くなる。



不定期に駄菓子屋を開催

集まった人が楽しめるイベントを開催したい

施設のおじいさんが店主となり駄菓子屋を開催

福祉施設利用者とカフェ利用者がつながる

不定期に駄菓子屋を開催

- 施設のおじいちゃんが店主として駄菓子屋を開き、お菓子やポップコーンを販売する。
- 開催頻度はおじいちゃんの体調や気分に合わせて、不定期にする。
→不定期なイベントとして楽しんでもらう。
- 行事（こどもの日など）は地域の子供たちが店番をする。



- 利用する子供たちは簡単な計算や人との関わり方を学ぶことができる。
- 店主は子供たちから元気をもらうことができる。



季節ごとの看板作成イベント

福祉施設利用者
と地域のつなが
りを強化

両者が関わるこ
とができる継続
的なイベントが
必要

季節ごとに看板
を作成するイベ
ントを開催

季節ごとの看板作成イベント

- 季節に合わせた看板を作成する。
- 施設の方や地域の方がみんなで一つの看板を作成する。
- 作成した看板をカフェに設置する。



- 地域の方がカフェに関わるきっかけになる。
- イベントを通して地域に親しみのある施設になる。
- 施設利用者の健康増進やコミュニケーションの促進につながる。



チャンネル

回覧板にチラシを入れる。
学校でチラシを配布する。

理由

- ・回覧板はほとんどの地域の方が目を通すため宣伝効果がある。
- ・ターゲットが40～70代の方のためSNSより回覧板のほうが目に入る。
- ・学校でチラシを配ることによって児童・生徒の全員の目に入る。

具体案の効果

カフェを利用する方

- みんなで集まれる場所が福祉施設ということで、福祉に対する知識や関心を持ち、偏見などを無くすことができる。
- 施設の人や地域の人々と関わることで、人との関わり方・接し方を学べる。
- “福祉”が地域の方の身近な存在にすることができる。

具体案の効果

施設の方

- ポップコーン屋台や駄菓子屋を通して子供達と関われる機会が増える。
- 施設利用者の健康増進やコミュニケーションの促進につながる。
- 地域に親しみのある施設になる。
- 施設が活気づく。
- 施設の活動を利用していない子供たちや地域の方にも伝えることができる。

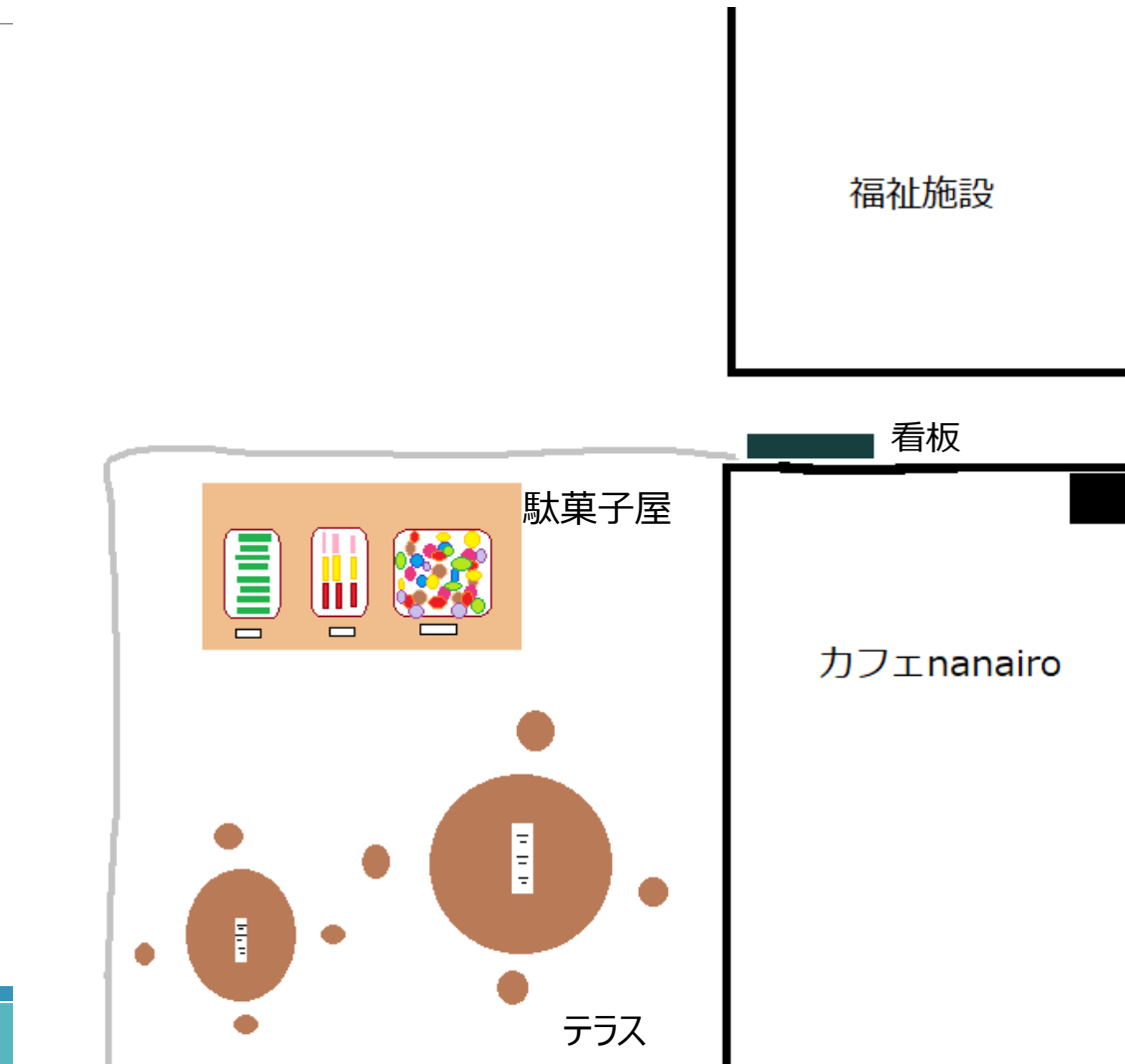
福祉施設が行う意味

- 決まりもなく自由に子供達の意見や福祉施設利用者の声が聞けて、より良いものをみんなで作っていける。
- 地域の声を取り入れやすくする。
- 地域内で人と人とのつながりが生まれやすい。
→ 地域内での孤立化を防げる。
- 福祉施設利用者も一緒に交流出来るようなオリジナルのイベントを行うことが出来る。
- 地域や福祉施設利用者優先の活動ができる。

まとめ

- ゲームもできるテラス席をつくることで、地域の方が気軽に集まるカフェになる。
- 不定期に駄菓子屋を開催することで、地域の人と施設利用者が関わるができる。
- 季節ごとの看板作成イベントを開催することで、継続的に両者のつながりを強化できる。

イメージ図



- 灰色：外構デザイン領域
- その他の場所：福祉施設の駐車場

参考文献

- studio-L 「介護・福祉のこれからプロジェクト『介護・福祉のこれからをつくる67のデザイン』」
<https://korekara-pj.net/design/> (2022/09/17)
- 下河原忠道 「駄菓子屋のある高齢者住宅 地域とつながり進化する介護ビジネス」『事業構想』、2015年12月号
<https://www.projectdesign.jp/201512/community-care/002578.php> (2022/09/17)
- 鶴岡市 「区域表」
<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/kurashi/gomi-seikatsu/shinyo/shinyou.files/kuikihyou.pdf> (2022/09/17)
- 鶴岡市 「鶴岡市地域・年齢別人口（2021年3月31日調査）（エクセル：20KB）」
https://www.city.tsuruoka.lg.jp/shisei/gaiyo/tokei/open_data.files/062031_population_20210331.xlsx (2022/09/17)
- ヌリカエ 「【外構工事】テラスの設置価格は？～定義・相場・見積書を公開～」、2019年1月18日更新
https://www.nuri-kae.jp/column/part/exterior_terrace/articles/1086/ (2022/09/17)

参考文献

- 有料老人ホーム検索探しっくす 「【実は深い】老人ホームで行われるイベントや行事、レクリエーションの役割とは？」

<https://www.sagasix.jp/knowledge/about/event/> (2022/09/17)

- 有料老人ホーム検索探しっくす 「『認知症カフェ』とは？ 地域の集いの場として機能するその集まりを解説！ | 認知症のコラム」、2019年8月28日更新

<https://www.sagasix.jp/column/dementia/ninchishocafe/> (2022/09/17)